



大幸薬品

2021年12月期 (FY2021) 第2四半期 連結決算報告

2021年8月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

1. 第2四半期 連結決算概要

2. 第2四半期 セグメント別事業概況

3. 通期業績予想、配当予想の修正

4. 第2四半期 業績総括

5. 現状の課題と今後の取り組み



1. 第2四半期 連結決算概要

決算期変更による調整について

- 国内法人の決算期を海外法人と統一して12月31日に変更したため、前期は変則決算
- 上記変更に伴い、本資料では当期と同一期間となるよう組み替えた「調整後数値」を記載

財務報告数値

	2020年				2021年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
国内法人		前第2四半期累計			当第2四半期累計			
海外法人	前第2四半期累計							

調整後数値

	2020年				2021年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
国内法人		前第2四半期累計			当第2四半期累計			
海外法人	前第2四半期累計							

※調整後数値は、監査法人による監査を受けていない参考値

- 売上高は、感染管理事業の前年同期からの需要減少により大幅減収
- 減収による売上総利益の減少や棚卸資産の評価損により大幅な営業損失

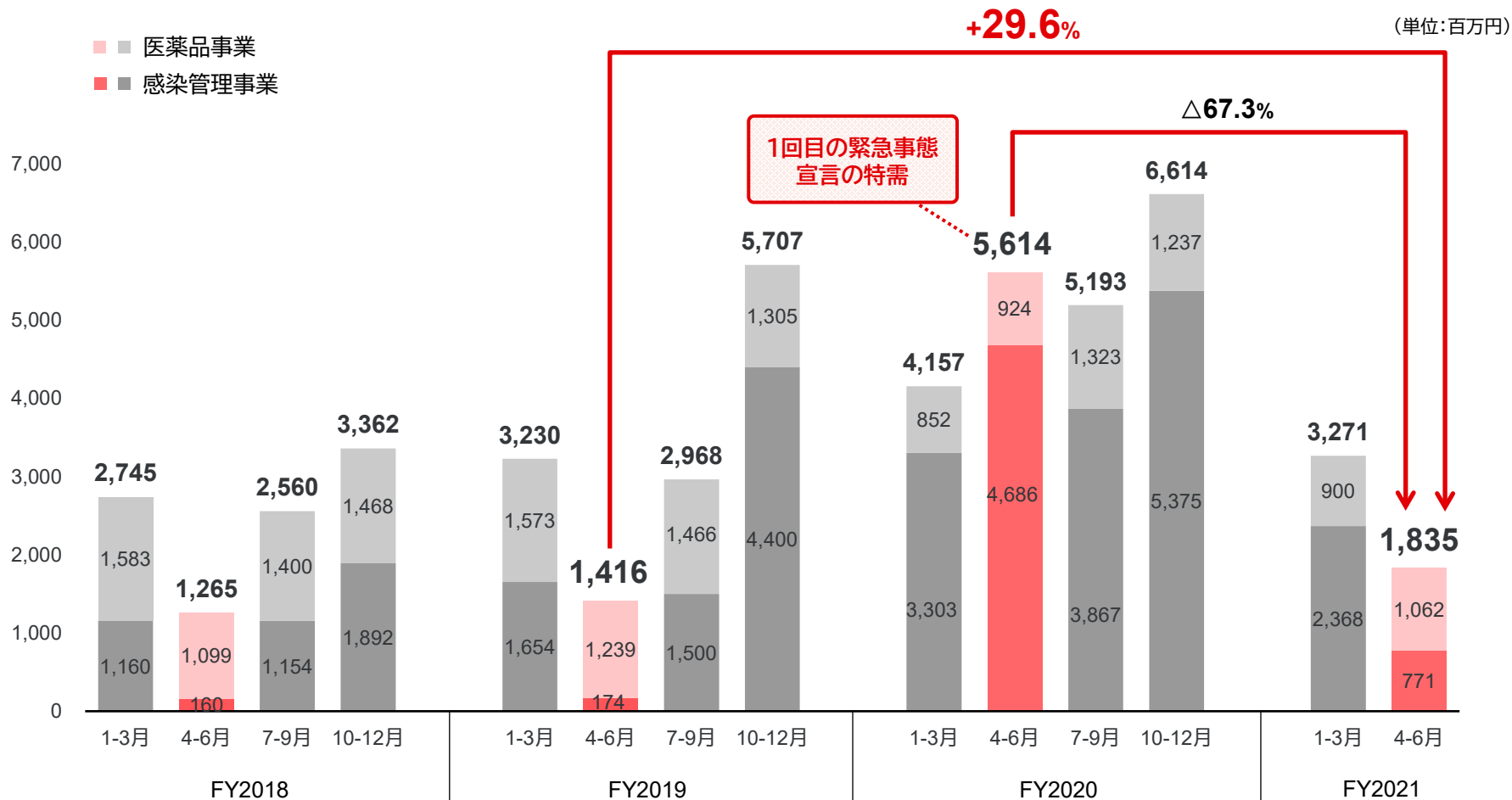
(単位:百万円)

	FY2020 (調整後)		FY2021		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第2四半期 累計実績	売上比	第2四半期 累計実績	売上比		
売上高	9,771	-	5,106	-	△4,665	△47.7%
売上総利益(※)	6,878	70.4%	1,483	29.0%	△5,395	△78.4%
販管費	3,572	36.6%	3,763	73.7%	+190	+5.3%
営業利益	3,305	33.8%	△2,280	△44.7%	△5,585	-
経常利益	3,199	32.7%	△2,737	△53.6%	△5,936	-
四半期純利益	2,137	21.9%	△2,372	△46.5%	△4,509	-

※ 返品調整引当金計上後の売上総利益

連結売上高推移 (四半期)

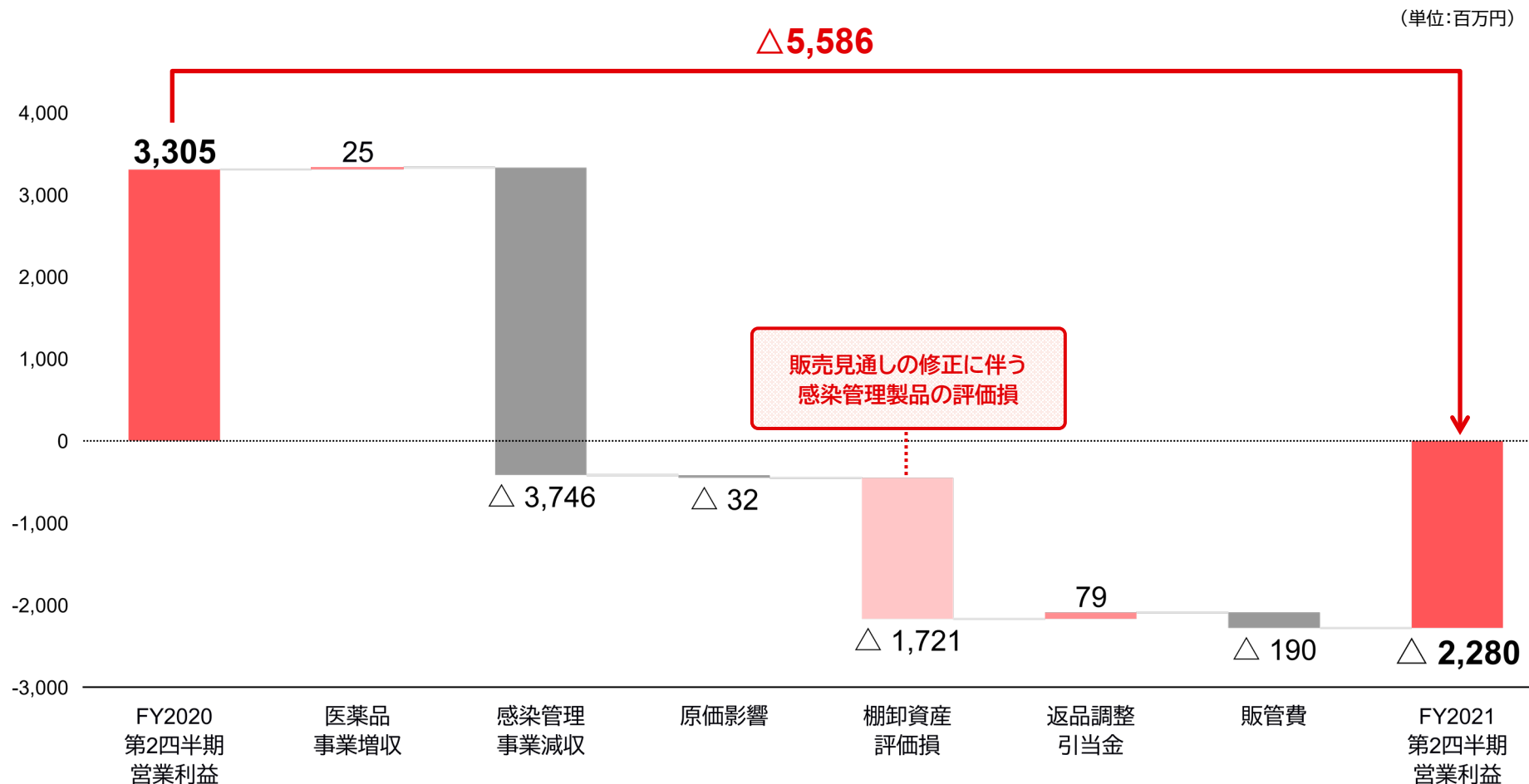
- 前年同期は新型コロナウイルス感染拡大による**初めての緊急事態宣言** ⇒ **大幅な需要増**
- 新型コロナウイルス流行の長期化やワクチン接種の本格化等によって需要は減少



※2019年以前は決算期変更の調整前数値

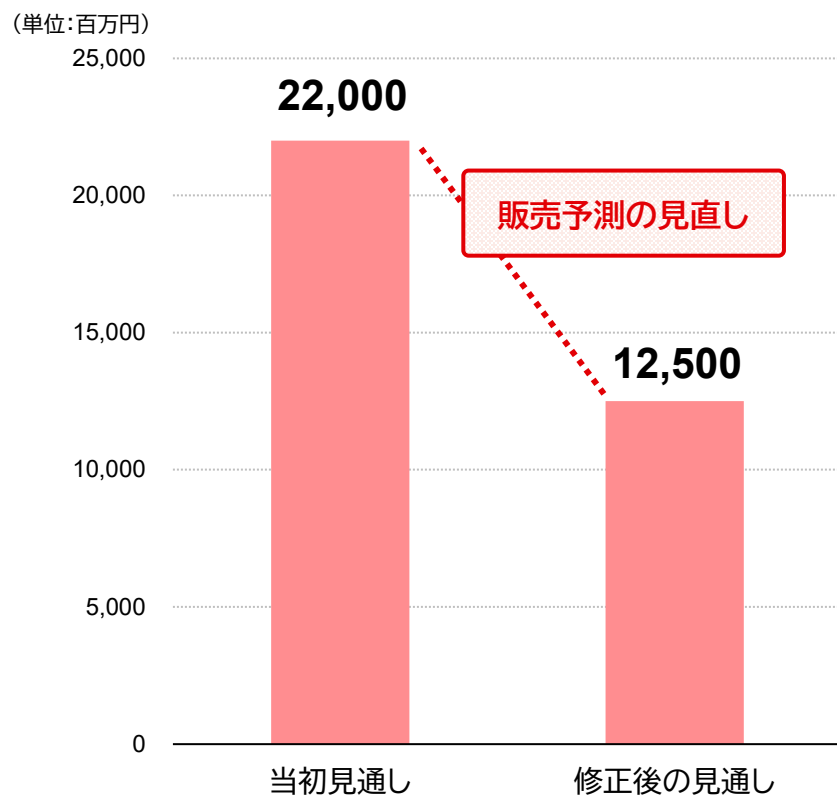
営業利益の変動要因

- 医薬品事業は増収となったものの、感染管理事業の大幅減収や棚卸資産の評価損計上、販管費の増加などによって営業利益は大幅減益

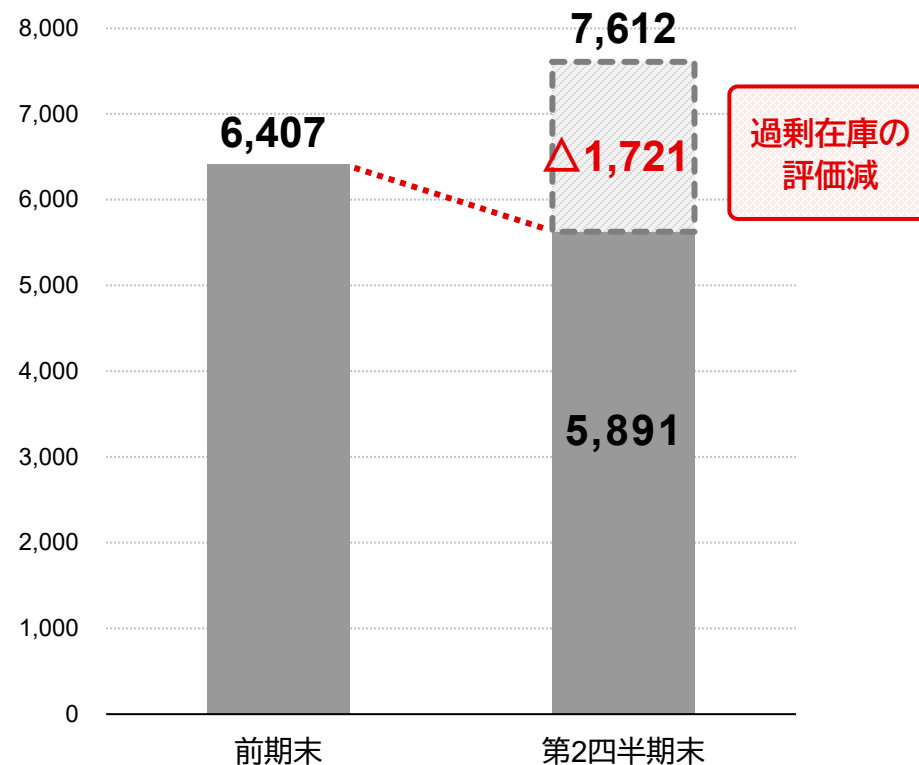


- 感染管理事業における販売予測の見直しに伴い、保有在庫の評価減(1,721百万円)を実施

■ 通期販売見直し



■ 在庫状況



販売費及び一般管理費

- 広告宣伝費の増加や在庫保管量の増加に伴う運送費の増加によって販管費は増加

(単位:百万円)

	FY2020(調整後)		FY2021		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第2四半期 累計実績	構成比	第2四半期 累計実績	構成比		
販売費及び一般管理費合計	3,572	-	3,763	-	+190	+5.3%
販売費	1,614	16.5%	1,884	36.9%	+270	+16.7%
広告宣伝費	814	8.3%	962	18.9%	+148	+18.2%
販売促進費	548	5.6%	501	9.8%	△47	△8.7%
運送費	251	2.6%	420	8.2%	+169	+67.6%
人件費	923	9.4%	966	18.9%	+43	+4.7%
その他経費	1,035	10.6%	913	17.9%	△122	△11.8%
研究開発費	232	2.4%	244	4.8%	+11	+5.1%
支払手数料	379	3.9%	297	5.8%	△81	△21.5%

経常利益・四半期純利益

- 生産調整に伴う操業停止関連費用の計上 345百万円(営業外費用)
- 遊休金型等の減損損失の計上 225百万円(特別損失)

(単位:百万円)

	FY2020(調整後) 第2四半期 累計実績	FY2021 第2四半期 累計実績	前期比	増減要因等
営業利益	3,305	△2,280	△5,586	
営業外収益	8	42	+33	主に為替差益の影響
営業外費用	114	499	+384	主に操業停止関連費用の計上(345百万円)による影響
経常利益	3,199	△2,737	△5,936	
特別利益	0	60	+60	投資有価証券売却益の計上による影響
特別損失	129	225	+95	遊休金型等の減損損失(225百万円)による影響
税金等調整前四半期純利益	3,070	△2,901	△5,972	
法人税、法人税等調整額	932	△529	△1,461	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,137	△2,372	△4,510	

- 棚卸資産は評価損の計上によって前期末比で減少
- 資金調達(長期借入金)によって手元流動性を確保

(単位:百万円)

	FY2020 期末	FY2021 第2四半期末	前期比	増減要因等
流動資産	19,822	14,625	△5,196	
現金及び預金	4,944	5,915	+970	
売上債権	7,918	2,170	△5,747	債権の回収により減少
棚卸資産	6,408	5,891	△516	感染管理事業において棚卸資産評価損を計上1,721百万円
固定資産	11,935	12,583	+648	主に京都工場における医薬生産設備(建設仮勘定)や繰延税金資産の増加
資産合計	31,757	27,209	△4,548	
流動負債	7,487	2,357	△5,130	支払手形及び買掛金、未払法人税等の減少
固定負債	1,488	4,866	+3,377	長期借入金の増加
純資産	22,781	19,986	△2,795	四半期純損失の計上、期末配当等
負債純資産合計	31,757	27,209	△4,548	
自己資本比率	71.7%	73.5%		

連結キャッシュ・フロー状況

(単位:百万円)

	FY2020(調整後) 第2四半期	FY2021 第2四半期末	主な要因 (FY21)	
営業CF	3,699	△1,259	EBITDA	△1,826
			仕入債務の減少	△2,562
			法人税等の支払額	△1,018
			売上債権の減少	5,767
			未払金の減少	△900
投資CF	△426	△1,149	設備投資による支出	△1,226
財務CF	△195	3,305	長期借入による収入	4,000
			配当金の支払額	△780
現金・同等物換算差額	△3	58		
キャッシュ増減 ※1	3,073	954		
キャッシュ期末残高	8,724	5,652		
EBITDA ※2	3,558	△1,826	営業利益	△2,280
			減価償却費	454

※1 営業CF + 投資CF + 財務CF + 現金・同等物換算差額

※2 営業利益 + 減価償却費



2. 第2四半期 セグメント別事業概況

セグメント別事業概況

- 医薬品事業は、海外向けの増収や販管費の減少により増益
- 感染管理事業は、大幅な減収影響や棚卸資産の評価損の計上等により大幅減益

(単位:百万円)

		FY2020(調整後) 第2四半期 累計実績	FY2021 第2四半期 累計実績	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
医薬品事業	売上高	1,776	1,962	+186	+10.5%
	セグメント損益	421	594	+173	+41.2%
	利益率	23.7%	30.3%	-	-
感染管理事業	売上高	7,990	3,140	△4,850	△60.7%
	セグメント損益	3,599	△2,139	△5,738	-
	利益率	45.0%	△68.1%	-	-
その他事業	売上高	4	3	△0	△18.3%
	セグメント損益	△22	△12	+10	-
	利益率	△486.4%	△329.9%	-	-

- 4月以降、新型コロナウイルスの影響が一巡したこと等から前年同期比では回復傾向
- しかしながら、消費者の外出自粛やインバウンド需要消失の影響は継続

製品カテゴリー別売上高

(単位:百万円)

	FY2020(調整後)		FY2021		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第2四半期 累計実績	構成比	第2四半期 累計実績	構成比		
国内医薬品事業売上高	1,526	-	1,475	-	△50	△3.3%
正露丸	611	40.1%	564	38.2%	△47	△7.7%
セイロガン糖衣A	857	56.2%	852	57.7%	△5	△0.6%
正露丸クイックC	30	2.0%	33	2.3%	+3	+10.6%
その他 ※1	27	1.8%	25	1.7%	△1	△5.5%

※1 整腸薬「ラッパ整腸薬BF」、止瀉薬「ピシヤット」等

正露丸



セイロガン糖衣A



正露丸クイックC

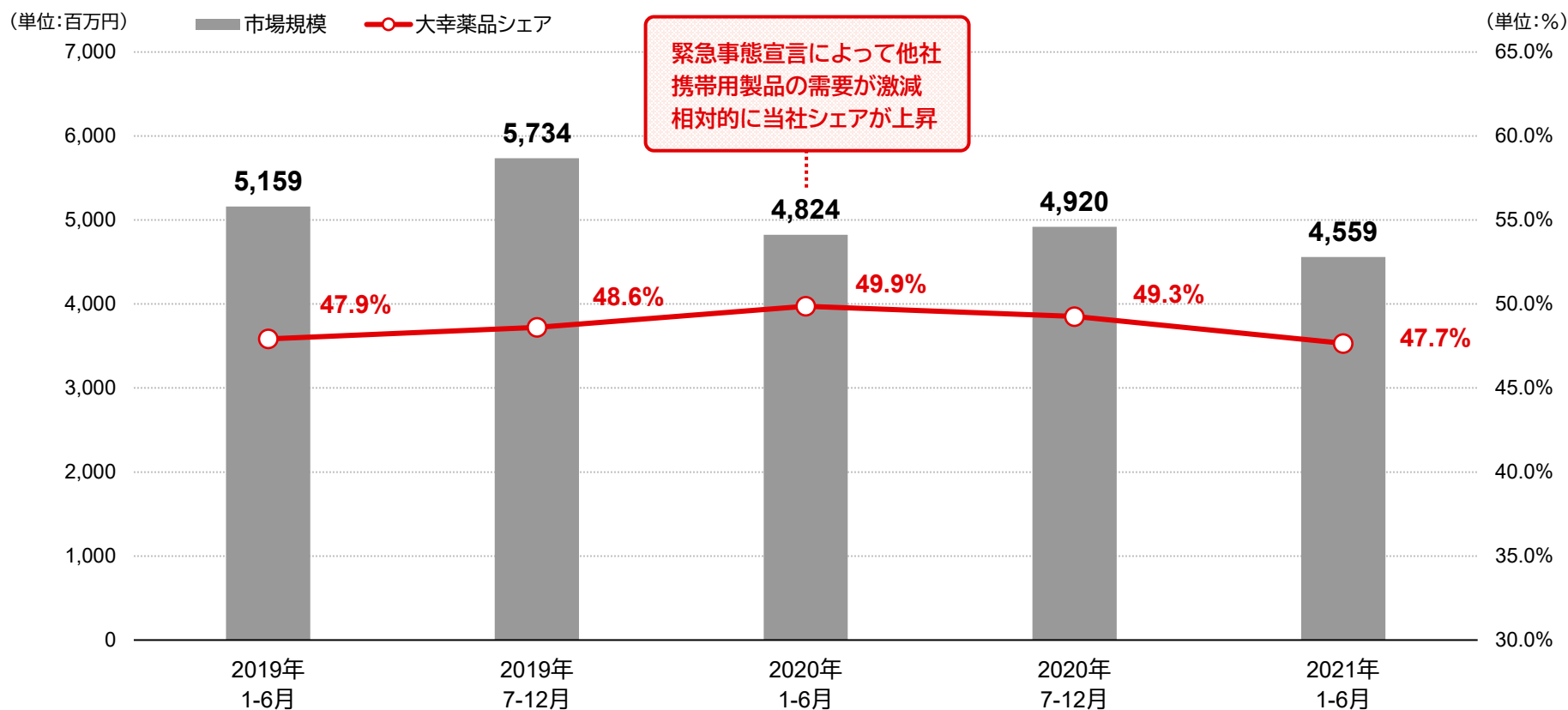


ピシヤット下痢止めOD錠



- 国内シェアに大きな変化はないものの、消費者の外出自粛に伴う携帯用製品の需要減少やインバウンド需要の消失などによって厳しい市場環境は継続

国内止瀉薬市場



※出所: 株式会社インテージ、店頭小売価格ベース

- 中国向けは販売ライセンス更新に伴う出荷前倒しにより前年同期比で増収
- 主力の中国や香港での店頭消化は新型コロナウイルスの影響から回復傾向

地域別売上高

(単位:百万円)

	FY2020(調整後)		FY2021		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第2四半期 累計実績	構成比	第2四半期 累計実績	構成比		
海外医薬品事業売上高	250	-	487	-	+237	+94.7%
中国	-	-	320	65.8%	+320	-
香港	132	52.8%	36	7.5%	△95	△72.3%
台湾	105	42.2%	111	22.8%	+5	+5.3%
その他対象エリア ※1	13	5.0%	18	3.9%	+6	+51.0%

※1 米国、カナダ、タイ、マレーシア、ベトナム、モンゴル

正露丸



セイロガン糖衣A



- 新型コロナウイルス流行の長期化に伴う不安度の鈍化やワクチン接種の開始等に伴い前年同期比では大幅な反動減
- 競合他社を含めた除菌関連製品全般の市場在庫過多によって販売が低迷

製品カテゴリー別売上高

(単位:百万円)

	FY2020(調整後)		FY2021		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第2四半期 累計実績	構成比	第2四半期 累計実績	構成比		
感染管理事業売上高	7,990	-	3,140	-	△4,850	△60.7%
クレバリン	6,755	84.5%	2,702	86.0%	△4,052	△60.0%
クレベ&アンド	1,234	15.5%	438	14.0%	△795	△64.5%

対象顧客別売上高

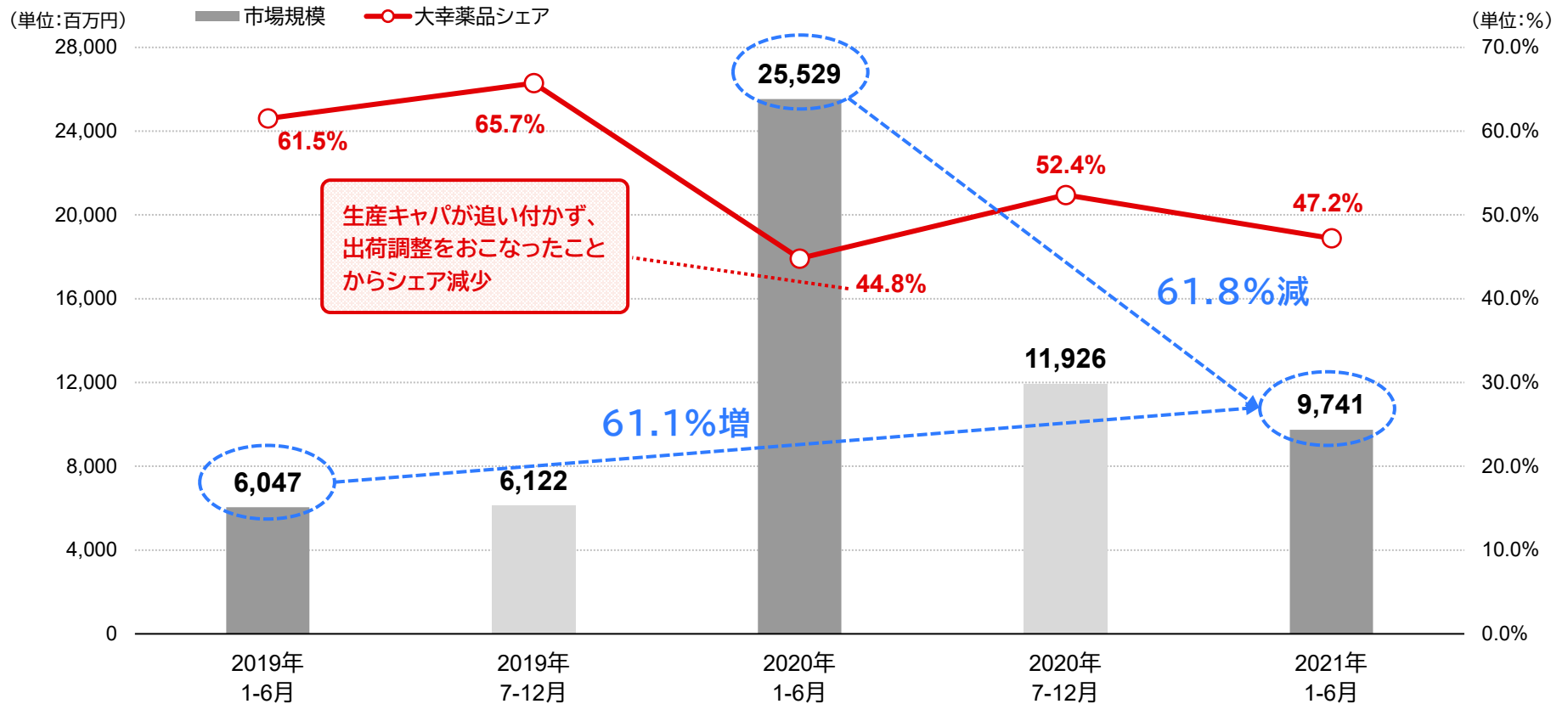
(単位:百万円)

	FY2020(調整後)		FY2021		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	第2四半期 累計実績	構成比	第2四半期 累計実績	構成比		
感染管理事業売上高	7,990	-	3,140	-	△4,850	△60.7%
国内一般用	6,599	82.6%	2,189	69.7%	△4,410	△66.8%
国内業務用	990	12.4%	746	23.8%	△243	△24.6%
海外	400	5.0%	204	6.5%	△195	△48.9%



- FY2019比では市場は拡大傾向も、FY2020比では市場規模は減少
- 競合増加により市場シェアは減少するも、主力の置き型のシェアは8割超

国内ウイルス除去市場



※出所: 株式会社インテージ、店頭小売価格ベース



3. 通期業績予想、配当予想の修正

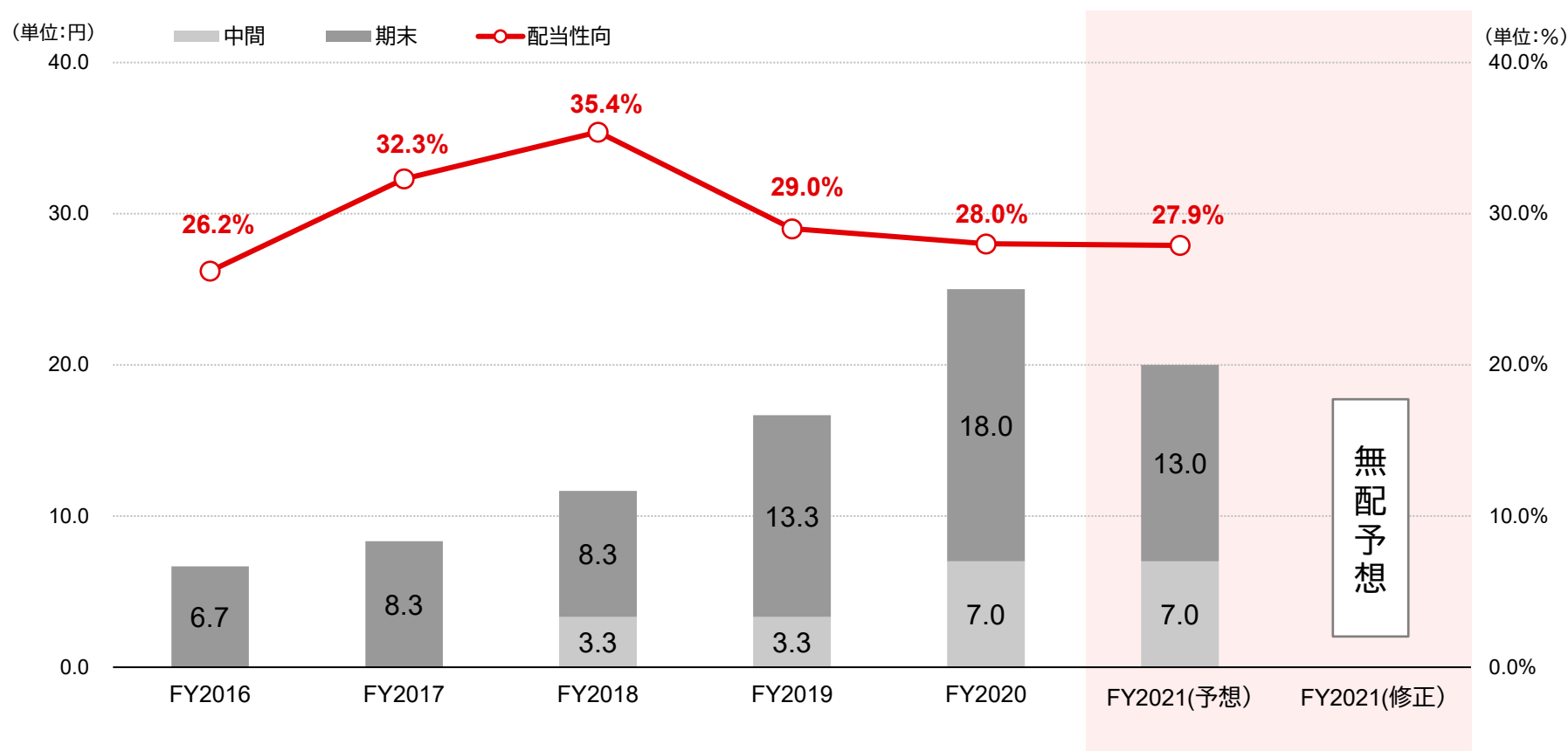
2021年12月期通期業績予想の修正

- 新型コロナウイルス感染症向けの需要予測が当初計画を大幅に下回る想定
- 他社商品を含めた市場在庫が過多となっており、下期の出荷も想定を下回る見通し
- 売上の大幅減収に加え、棚卸資産の評価減や生産調整にともなう操業停止関連費用の計上を織り込み、業績予想を大幅に下方修正

(単位:百万円)

	FY2021通期 業績予想 修正前	FY2021通期 業績予想 修正後	増減額	増減率	FY2020通期 実績 (調整後)
売上高	22,000	12,500	△9,500	△43.2%	21,580
医薬品	4,350	4,320	△30	△0.7%	4,337
感染管理	17,640	8,170	△9,470	△53.7%	17,234
その他	10	10	-	-	8
営業利益	4,500	△2,000	△6,500	-	6,199
経常利益	4,400	△3,400	△7,800	-	5,951
当期純利益	3,100	△2,800	△5,900	-	4,118

- 2021年12月期の配当予想は中間7.0円、期末13.0円を予定していたものの、当期純利益が大幅な赤字見通しとなったことから、中間配当は「無配」、期末配当についても「無配予想」へ修正





4. 第2四半期 業績総括

	当初計画	現状(第2四半期)	通期見通し
医薬品事業	<p>売上高 4,350 百万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 外出自粛による携帯用の低迷やインバウンド需要の消失といった影響は継続 ■ FY21の後半にかけて、緩やかに市場の回復を見込む 	<p>売上高 1,962 百万円 (進捗率: 45.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内・海外ともに概ね計画通りの進捗 	<p>売上高 4,320 百万円 (達成率: 99.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 下期以降も概ね計画通りに推移する見通し 
感染管理事業	<p>売上高 17,640 百万円</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルスの影響によって市場の需要は高水準を見込む ■ 新型コロナウイルスに対する二酸化塩素のエビデンスをベースに国内・海外で拡販 	<p>売上高 3,140 百万円 (進捗率: 17.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 需要が予測を大きく下回る ■ 店頭等の市場在庫過多 ■ 新型コロナウイルスに対する二酸化塩素のエビデンス公表も、消費者への理解や需要喚起は不十分 	<p>売上高 8,170 百万円 (達成率: 46.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現状の需要状況や市場在庫の状況を鑑み、通期見通しを大幅に下方修正 

■ 通期業績予想の修正

- ・ 感染管理事業の大幅減収とそれに伴う棚卸資産の評価損や操業停止関連費用の計上等を見込み、通期業績予想を **大幅下方修正**

	FY2021通期 業績予想 修正前	FY2021通期 業績予想 修正後	増減額	増減率
売上高	22,000	12,500	△9,500	△43.2%
営業利益	4,500	△2,000	△6,500	-
当期純利益	3,100	△2,800	△5,900	-

■ 配当予想の修正

- ・ 当期純利益の大幅な赤字見通しを踏まえ、誠に遺憾ながら無配予想へ修正

中間配当7.0円 ⇒ **無配**

期末配当予想13.0円 ⇒ **無配予想**

- 通期業績予想の下方修正及び赤字決算並びに通期配当予想の無配という状況を真摯に受け止め、役員報酬の減額を決議

役員報酬減額の内容

- 代表取締役(2名) 月額報酬の30%
- 専務取締役(1名) 月額報酬の10%

対象期間

- 2021年8月から3ヶ月間

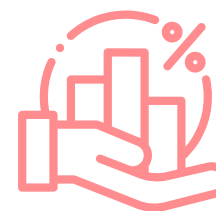
来期以降、早急な黒字化、復配を目指す



5. 現状の課題と今後の取り組み



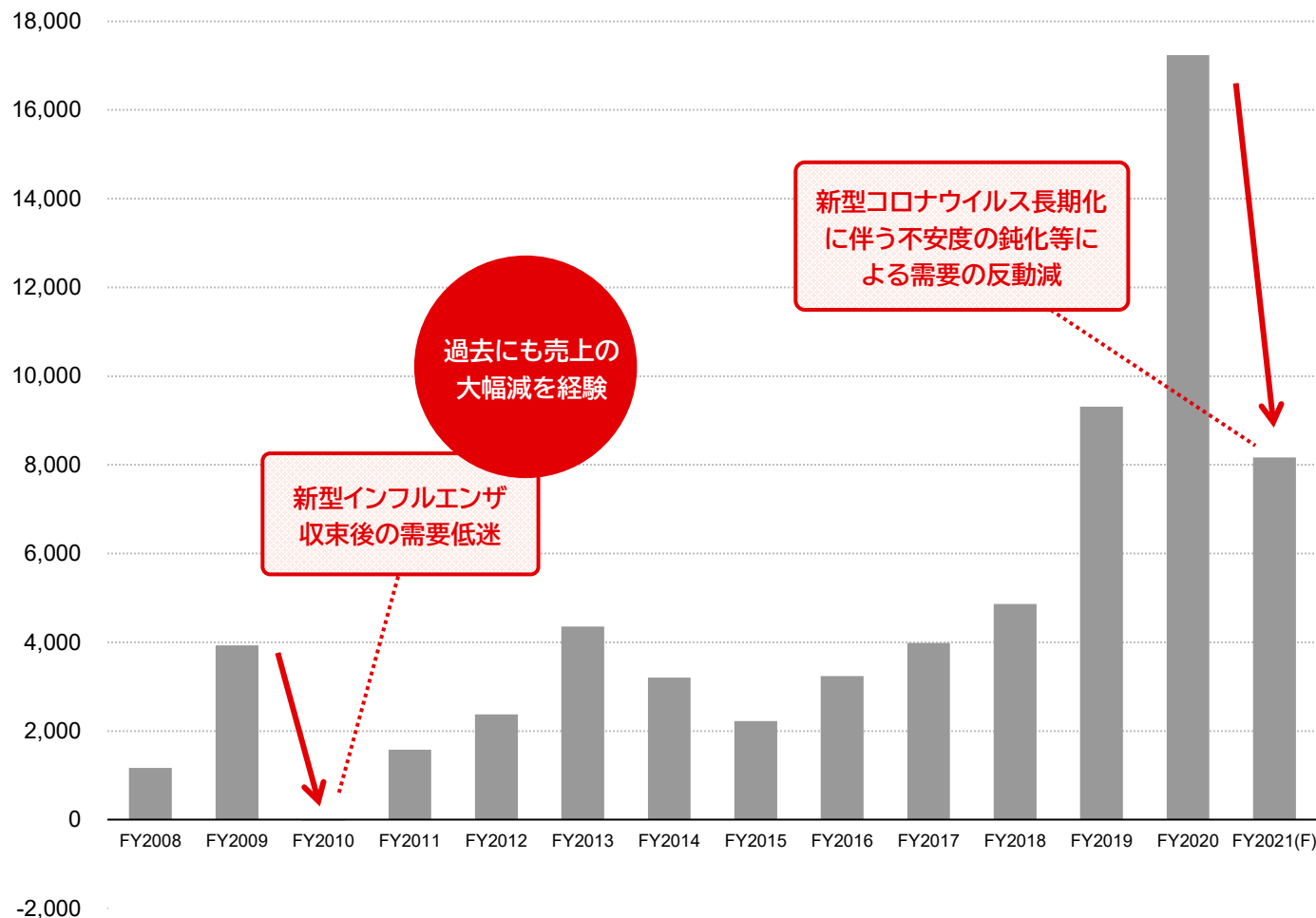
トップラインの
着実な成長



収益体質の
強化

■ 感染管理事業の売上推移

(単位:百万円)

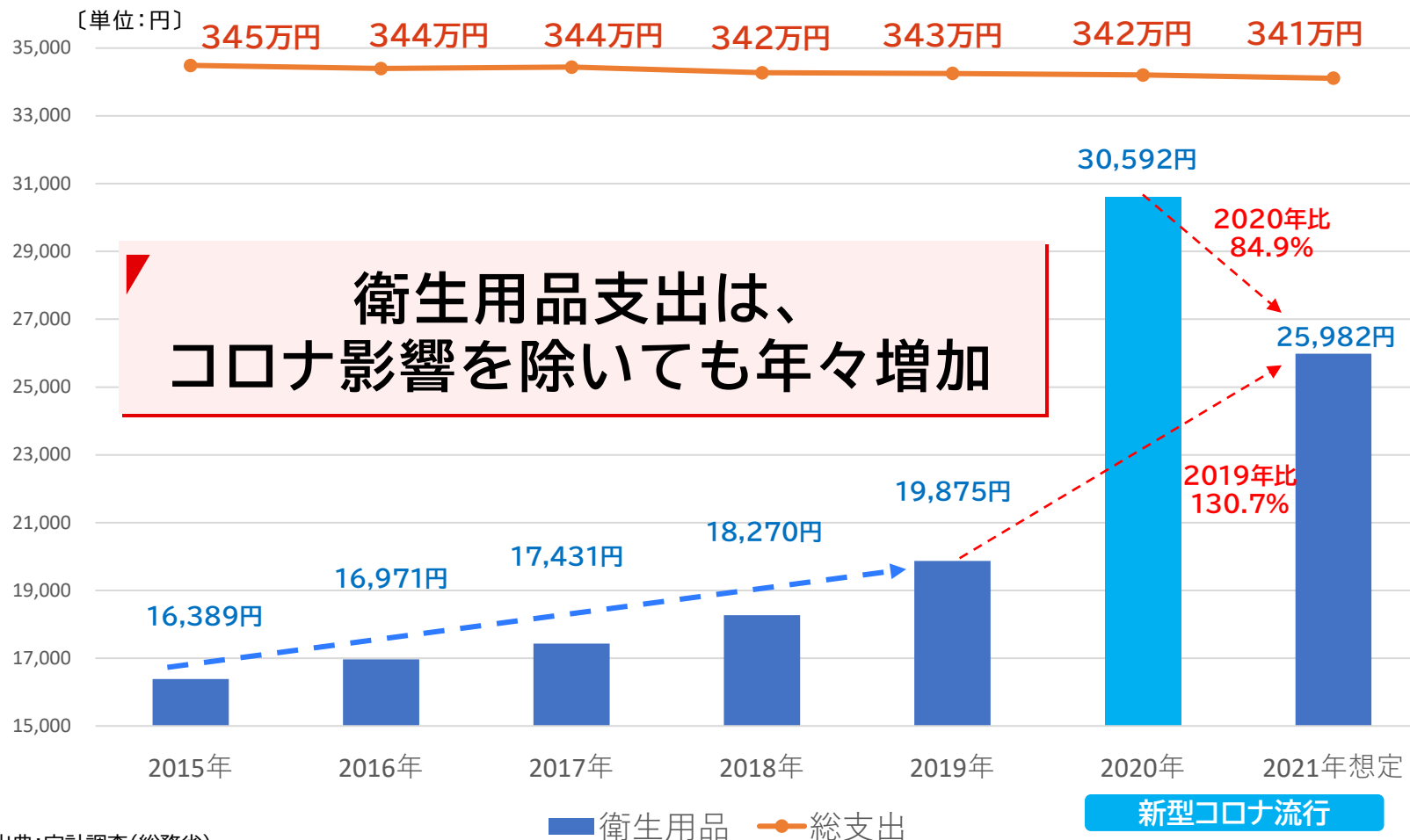


2020年の実績は
一時的な需要増の
要因が大きい

今後、売上は
成長していくか？

市場は伸びるのか？

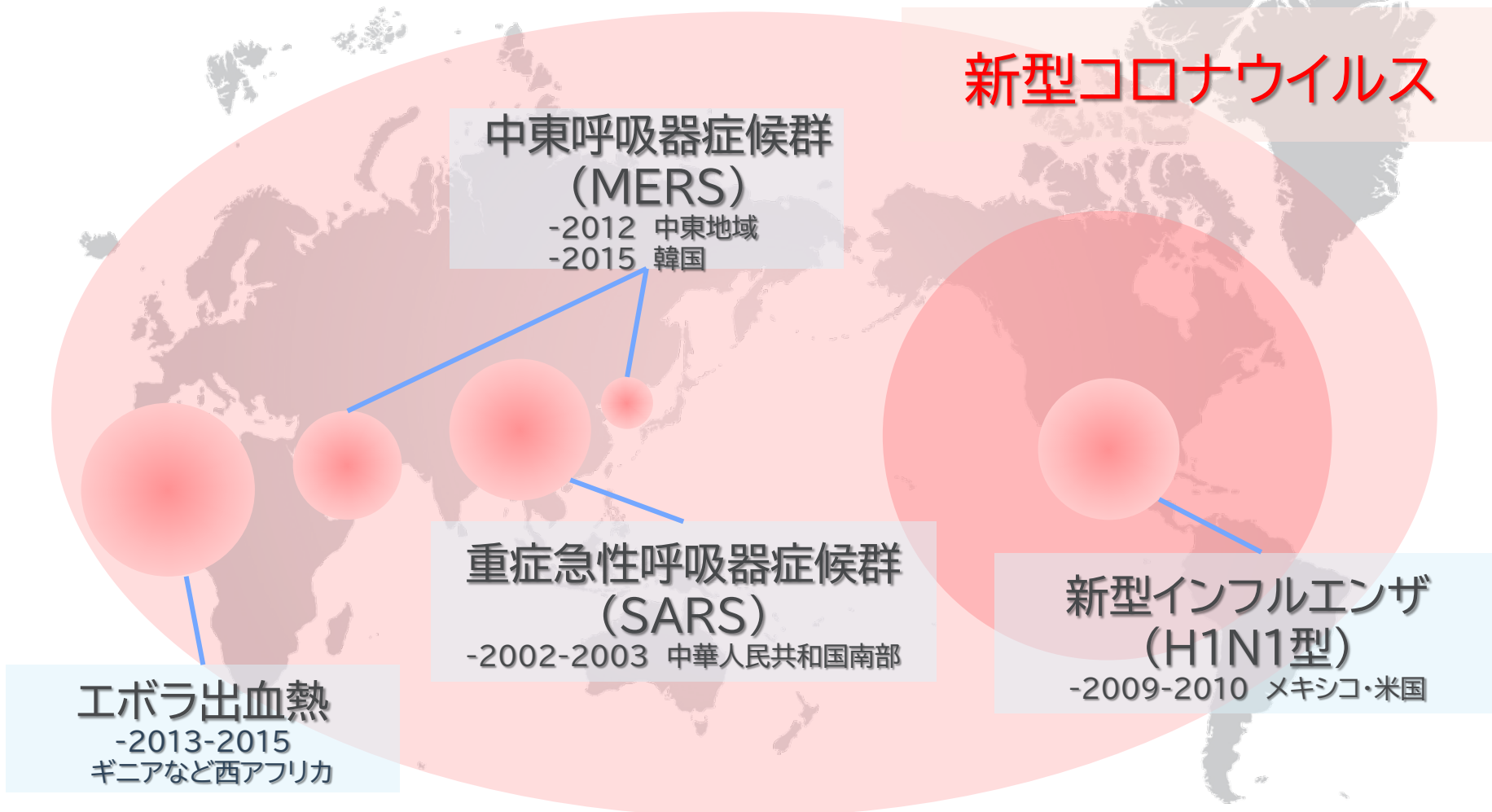
〔世帯支出と衛生用品支出〕



※出典：家計調査(総務省)

「衛生用品」：マスクやガーゼ、入浴剤などを含む「保健用消耗品」とウェットティッシュや漂白剤などを含む「他の家事用消耗品のその他」

世界中で新興するパンデミックリスク



- 消費者の衛生意識は着実に高まっている
- 新型コロナウイルス収束後も季節性感染症の脅威はなくなる

インフルエンザ

感染性胃腸炎・ノロ

RSウイルス

手足口病

溶連菌感染症



新たなパンデミックの可能性も十分にある



衛生管理市場はアフターコロナにおいても伸長する

総合除菌ブランドとして、継続的な成長を目指す

特許二酸化塩素を用いたイノベーションを更に進化

二酸化塩素製品の医薬品化

B2C向け



- ブランド認知を活かした効果的なマーケティング戦略

B2B向け



- 幅広い製品ラインナップによる衛生対策を実現
- チャネルパートナー戦略による営業強化
- 商品サンプリングによる市場創造

海外向け



- 既存進出国におけるマーケティング強化
- 各国での販売ライセンスの整備と早期の市場開拓

物体防衛

職場内・家庭内の
感染予防行動の徹底

- 手洗いの徹底
- 2m人との距離をとる
- マスクの着用
- 咳エチケット

+

●[物体消毒]の徹底

【即効性】

二酸化塩素液剤による直接除菌

【持続性】

二酸化塩素ガスによる付着菌除菌



空間防衛

職場空間・家庭空間の
感染予防環境の管理

- 換気による空間内のウイルスの希釈
- 室内温度管理によるウイルスの低減
《湿度50% 温度20℃》

+

●[空間除菌]の推奨

【即効性】

二酸化塩素液剤による空間噴霧

【持続性】

二酸化塩素ガスによる空間除菌

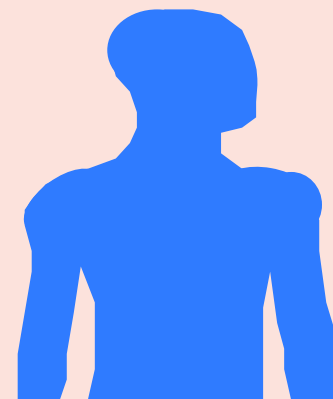


体内防衛

ワクチンの事前接種・
抗ウイルス薬の早期投与の管理

行政や医療機関の取組み

- ワクチンの事前接種
- 重症化を抑える
抗ウイルス薬の早期投与

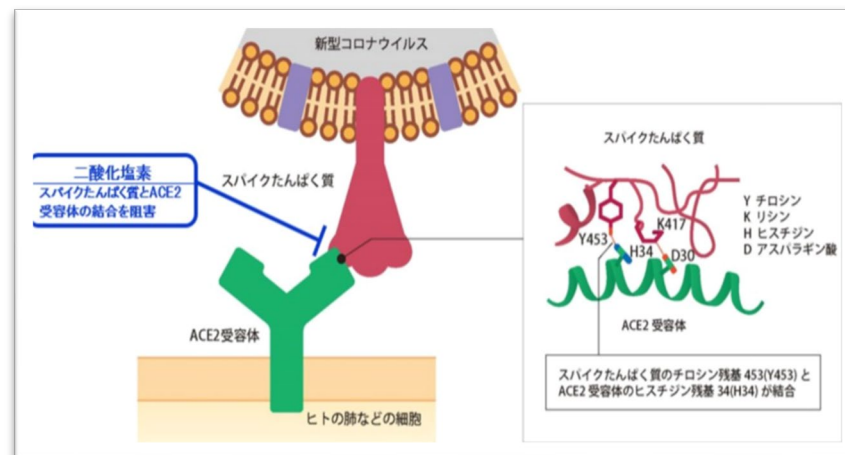
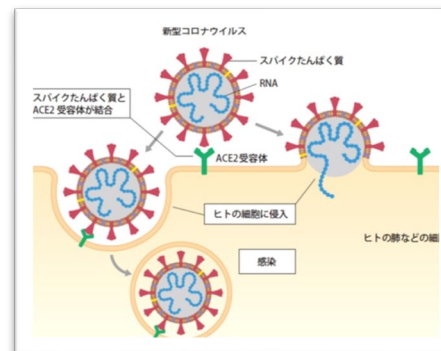




特開2018-138178(P2018-138178A)

浮遊ウイルス感染対策方法

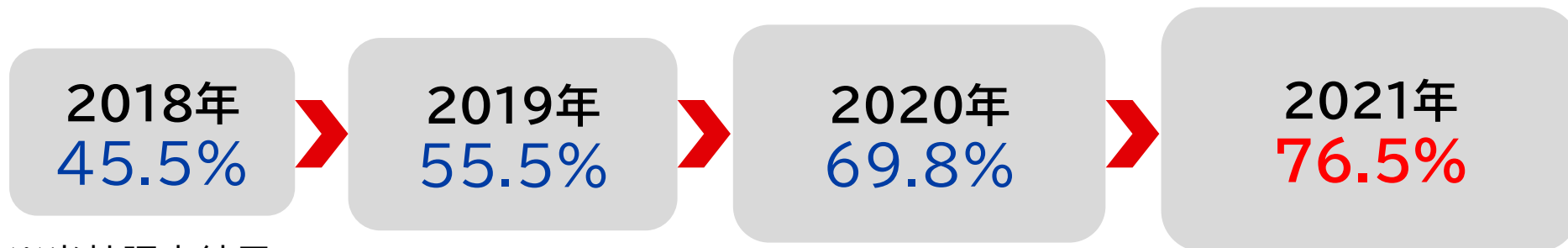
浮遊ウイルスが存在し得る空間に二酸化塩素ガスを供給して、前記空間における二酸化塩素ガスの濃度を、動物は生存し得るが前記浮遊ウイルスが失活する濃度である、
0.0001ppm～0.1ppmとする、浮遊ウイルス感染対策方法



エビデンスをベースに「空間除菌」市場を確立する

Inhibition of the Binding of Spike Protein of SARS-CoV-2 Coronavirus to Human Angiotensin-Converting Enzyme 2 by Chloride Dioxide, Ogata N and Miura T, *Annals of Pharmacology and Pharmaceutics*, Volume 5, Issue 5, Article 1195(2020)

■ ブランド認知は着実に成長



※当社調査結果

■ コストパフォーマンスの高い、コミュニケーション施策へ

- 『認知』から『購買』 ⇒ 『購買』から『ロイヤルユーザー化』に向けてきめ細やかなコミュニケーションを目指す

現在

マスメディア



これから

マスメディア



パーソナルメディア

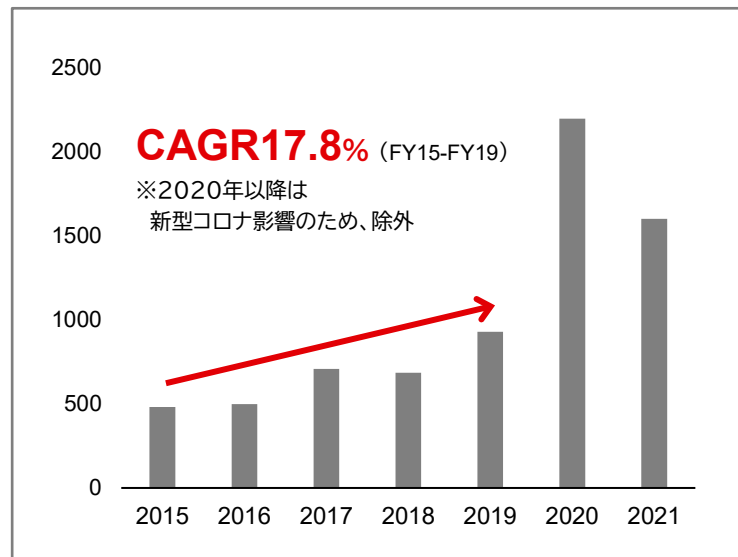


小売・店頭連動企画



- 着実に伸長してきた業務用市場において、チャネルパートナー(代理店)戦略によって更なる営業強化を目指す

■ 業務用実績推移 各年度を1-12月で集計

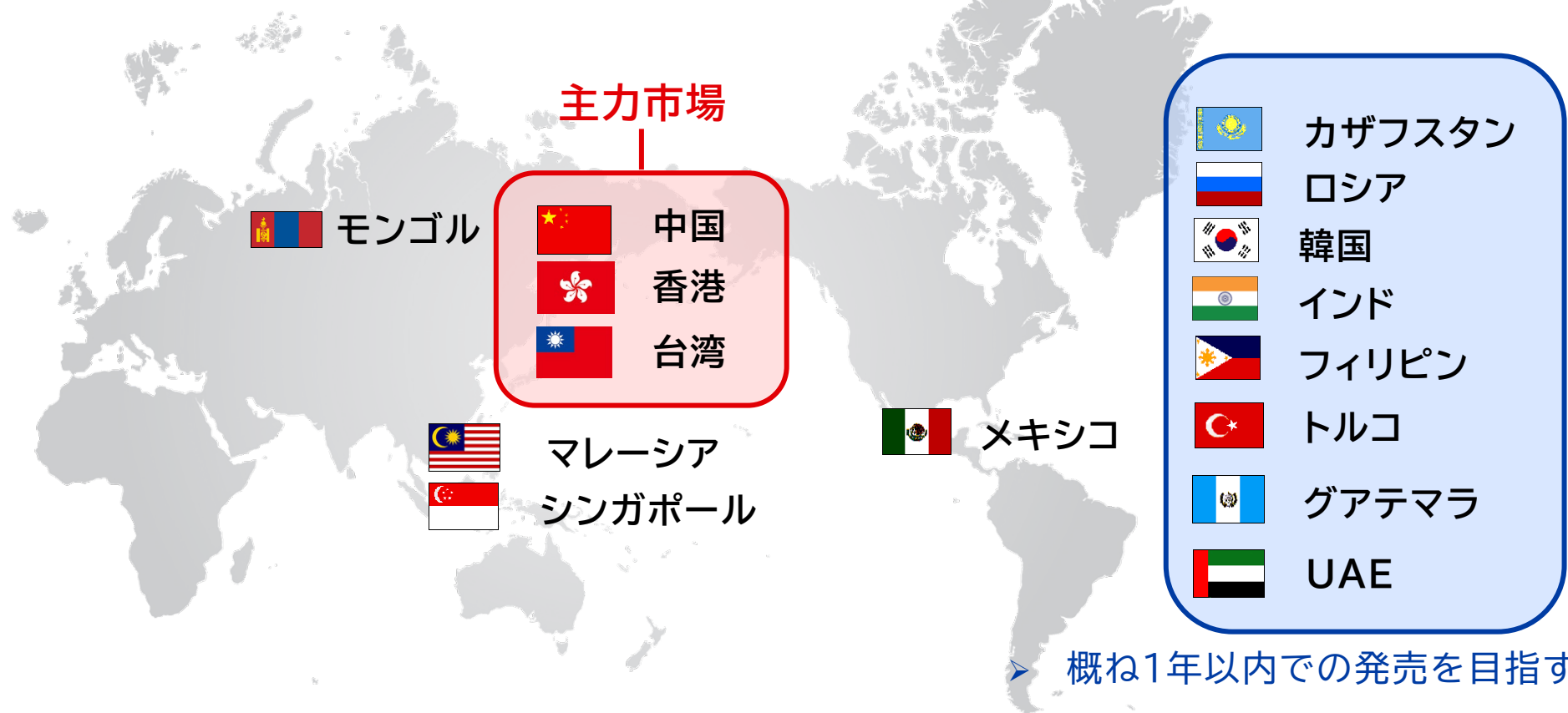


チャネルパートナーやKOLを中心とした取引へ移行し、営業効率を強化
 ⇒ 既存取引先(約250社)の絞り込み

- 海外の感染管理市場の本格開拓より約2年 ⇒ 順次販路を拡大中
- 更なる市場拡大に向け、ライセンス登録と市場開拓を推進

< 既存販売国 >

< 発売準備中 >



▶ 概ね1年以内での発売を目指す

- 事業拡大により増大した固定費を抜本的に見直し、収益体質の強化を図る

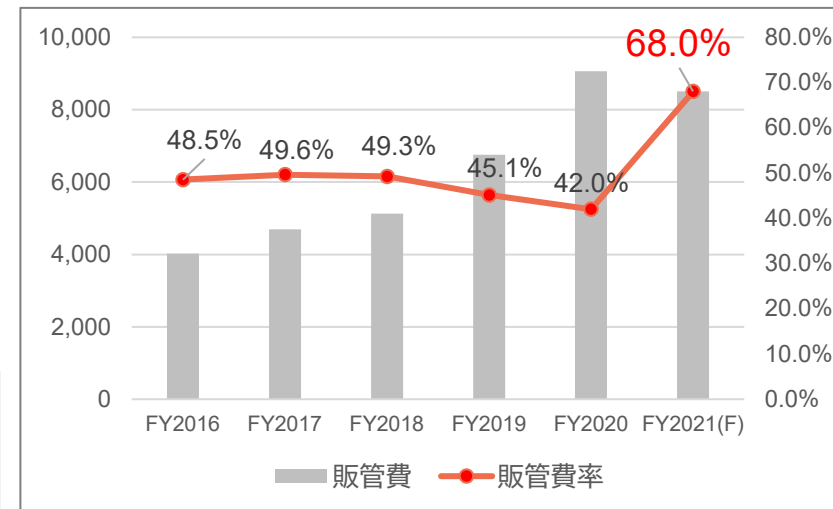
FY19 販管費 6,754百万円(売上高比45.1%)

FY20 販管費 9,061百万円(売上高比42.0%)

FY21(見) 販管費 8,500百万円(売上高比68.0%)

- ・ 前期水準の売上高(215億円)を前提とした販管費

早期のコスト圧縮目指す



次期 中期経営計画において抜本的な改革方針を策定中

■ 日本政府から大幸薬品への紺綬褒章(褒状)の授与

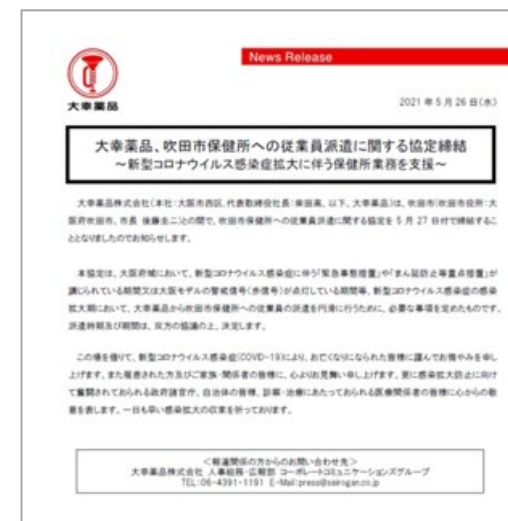
- ・ 衛生管理製品「クレベリン」の寄贈等の支援活動を高く評価していただいた
- ・ 今回の授与をひとつの励みとし、これからもより一層、社会的課題に取り組み、「世界のお客様に健康という大きな幸せを提供する」企業として、社会に貢献してまいります



紺綬褒章(褒状)

■ 吹田市保健所への従業員派遣に関する協定締結

- ・ 大阪府域における新型コロナウイルス感染症の感染拡大期において、大幸薬品から吹田市保健所への従業員派遣を円滑に行うための協定を締結





大幸薬品

将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません